



おなだに 柏崎女谷地区の「賽の神」



柏崎周辺農業水利事業所

1月15日（金）に市野新田ダムの^{おなだに}地元女谷^{かみの}地区上野集落において、小正月の火祭り「賽の^{さい}神」が執り行われました。「賽の神」は、一年の五穀豊穰と無病息災を祈る行事で、^{としがみさま}歳神様の送り火として全国各地で行われる「^{さぎ}左義^{ちよう}長」や「どんど焼き」と同様の行事のようです。当日は、この時期の柏崎には珍しく青空澄み渡る快晴で、地元集落から10余名、事業所から5名などが参加しました。

上野集落では、木の枝や竹で作った骨組みに藁を巻き、最後にしめ縄で巻き付け、これを「賽の神」と呼んでいました。

その後、祭壇のろうそくから採られた火が点けられ、瞬く間に「賽の神」は炎に包まれました。真っ赤に燃える送り火と、降り積もった白い雪の印象的なコントラストのなか、参加者は新年の豊穰と無病息災を静かに祈るとともに、歳神様を送り出しました。

また、参加者には御神酒が振る舞われ、「賽の神」の炭火であぶったスルメや餅を一同いただきました。

こうした「賽の神」は、柏崎市内の他地区でも行われていますが、地区によっては人手不足で開催できないという話も聞きました。当事業所としては、こうした地域の伝統行事にも積極的に参加し、地域の魅力と、美しく歴史ある農村を後世へ伝えられるよう取り組んでいきたいと改めて考えました。



「賽の神」の準備の様子



参加者全員で作った「賽の神」



送り火と雪のコントラスト